

日高市まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)に対する行政経営審議会委員の意見及び市の考え方

No	委員意見	市の考え方
1	【関連施策・事業】の中には、「☆」に該当しない項目もあるが、この列記の仕方で行くのか。	御指摘のとおり、施策によっては、【関連施策・事業】の中に、「☆印」や「◎印」の付いた事業が無い施策もありますので、注書きにある凡例(※「☆」: 先行交付金等による事業、「◎」: 目玉事業)は、各施策ごとの【関連施策・事業】の内容に合わせて、必要な場合にのみ記述にするよう修正します。
2	(施策4-2)3行目「第二の人生～」 ここでは、高齢者を対象とした内容になっている。若者が都会を離れて第二の人生を・・・という言い方もある。「第二・・・」はいろいろなのではないのか。	御指摘の通り、「第二の」という表現は、読み手の誤解を生む可能性もあるということで、削除させていただきます。
3	(施策4-4) 1、2行目と3、4行目の接点を読み取れない。「地域拠点の活性化」と3、4行目のつながりがないように思われる。そのため、KPIの「コミュニティカフェ設置数」は「戦略3」へ移動した方がいいのではないのか。	「地域拠点」としては、多様な人が集まり・交流する場としての、施策の1～2行目にかかる目的もありますが、市内の企業等にとっても、そうした人がたくさん集まる地域拠点ができることで、そのポテンシャルを活かした新たな事業展開や新たな賑わいづくりにつながるものと考えられることから、戦略4に掲載しています。
4	「歴史から学ぶ」 ・先人の築き上げた郷土を、1300年後の今日、私たちは歴史的な日に立ち会うことができます。 ・今日の巾着田の繁栄は、今から40年くらい前からのダム建設が中止となったことにより結果として潤った台地というかけがえのない「歴史・観光遺産」です。 かつて、高麗川団地は「子育て団地」(緑豊かな住みよい街＝学校・スーパー・銀行・バスなど)としてメディアで紹介されたこともありましたが、「衣食住」で最も大切な“水不足”が指摘され「水無し団地」のレッテルが貼り付けられました。その後、水の確保の緊急避難対策として巾着田を人造湖(ダム)にするという機運と計画があり、あわや「水没の危機」にあったとされていました。 住みよい街づくりを目指す原点は、当時の「高麗川団地」のような「住みやすさ」環境があったからこそ、多くの人が移り住んだと思いますが如何でしょうか。	御指摘の通り、これまで本市が脈々と受け継いできた歴史を、観光施策だけではなく、住みよい生活基盤づくりの知恵として積極的に生かしていくことが大切であると考えます。総合戦略では、戦略2「日高に住み続けたいくなる“住環境づくり”」として、住みよい定住環境づくりにかかる施策・事業を掲載しています。今後は、これらの事業推進にあたり、御意見を踏まえながら具体的に推進してまいりたいと考えます。
5	ファミリー層の人口流入を念頭に置き合計特殊出生率を1.3に上方修正できたとしても、今後この動向を維持することは期待薄のように感じる。 一つは優良な住宅提供に限界があること、日高市間の人口移動流としての近隣市町村も人口減少傾向にあることを考えると、これらの市町村がアメニティにおいて優れ、住宅価格が低く提示されたとき、本市が移動先として魅力をもって選択されるかどうかを考える、この推計は下方修正の可能性もあるのではないのか。	本市では、近年20歳代から30歳代にかけて、市外で出産して転入してくるファミリー層の人口流入が見られますが、御指摘の通り、今後は近隣市町村も定住人口維持のために、より住民にとっても魅力的な施策を講じるものと推察され、この傾向を今後も続けるには、そのハードルがさらに高くなるものと見込まれます。そのため、推計においても転入転出を見る「社会移動率」については、直近の社会動態を反映した微減傾向の値を採用しています。 一方、今回の人口推計では、この転入転出の見込みを推計する「社会移動率」とともに、市内での出生死亡の見込みを推計する、「合計特殊出生率」「生残率」を用いて自然動態も別途推計を行っています。御指摘いただいたこの「合計特殊出生率(※)」は、1人の女性が生涯に産む子どもの数を表しますが、これまでの、市外で子どもを出産して転入してくる傾向が高かったため、統計上、やや低い数値となっていたのではないかと考えています。このことは、本市が第1子の出生率は低いものの、第3子の出生率は県内40市の中でもトップであること、1世帯あたりの人口が県内他市に比べて比較的多いことから根拠づけられるのではないかと考えます。 そのため、1人の女性が生涯に産む子どもの数の推計値として、今後は子連れの転入ではなく(1.1～1.2前後)、市内に住まう出産年齢の女性が第1子から市内で出産するとした場合の数(1.3前後)を採用し、推計を行っています。 ※本推計では、「期間合計特殊出生率」を、当該市における1年間の出生率を用いて推計した値をみなし値として採用しています。本来は1人の女性が実際に産む数を積み上げて計算する「コーホート合計特殊出生率」を採用すべきですが、それではその女性が出産年齢を過ぎるまで統計できないので、通常、「期間合計特殊出生率」を採用します。
6	戦略・施策間の連携 戦略は明確に提示するという点においては原案のような戦略タイトルで良いと思うが、同時に総合戦略の体系としては戦略間あるいは施策間の連携・関連性も提示する必要があるかと思う。	戦略間、施策間の連携・関連性について、同一施策・事業を掲載する際は「再掲」として取り扱うとともに、各戦略及び施策の内容においても、連携・関連性があるものについては、それらの連携・関連性が分かるよう表現表現を工夫します。
7	* 施策1－施策2－施策4 観光産業による活性化はおそらく何らかの観光資源を有する市町村で検討されていることと思うが、問題はこれにより地域の活性化と経済効果を期待できるかである。 前者においては郷土愛などを育てることができるが、環境整備・維持に要するコストも含めると後者はどうか疑問が残る。特産品の検討に関して特産品はどこで買うことができるのか。 ハイキングは別として、サイボク、加藤牧場、農協は車利用者中心となると思われるため、せめて乗降客の多い高麗川駅の活性化はできないか。 計画にある高麗川駅東口の開設で、これを軸に駅に市役所の出先機関としての機能とNPOを含め利用できるコミュニティスペースの創設、観光案内、特産品販売所などの併設をJRとともに検討することは不可能なのか。(近隣の鶴ヶ島市では若葉ウォークのテナントとなり、出張所とだれでも利用できるコミュニティスペースを展開している)。こうした拠点づくりに通学に駅を利用する学生の力を活用を検討するべきである。	御指摘の通り、単に観光客を多く呼び込むだけでは、市内ですべてのお金が増えるわけではないため、市内での飲食や市内生産された商品の購入、観光スポットへの入場料の支払い、市内交通の利用・・・など、いかに市内での観光客による消費行動を促し、経済効果へとつなげるかが非常に重要と考えています。しかし、これまでの、巾着田を始めとしたたくさんの観光客が訪れていたものの、市内での消費行動に十分につなげることができていなかったことが課題であると認識しています。 そのため、観光客の市内での消費行動を促すための基盤づくりとして、例えば御指摘のような観光案内や市内で生産された土産物販売の拠点づくりなどを、民間企業、大学等とも連携し、一定程度市も費用負担しながら整備していく必要があります。観光客に対する魅力をより高めていくためには、本市の顔でもある高麗川駅周辺の環境整備はもちろんですが、車での来訪者が多いサイボクハムや加藤牧場、農協などに来られた方が、市内の他のスポットを周遊してもらえるような仕掛けづくりなど、連携して展開していく必要があるものと考えています。 具体的には、今後総合戦略に基づく事業を推進していく中で、御提案いただいた方向性を含めて対応策を検討してまいります。
8	施策3 子育て環境に関してですが、子育ての期間はどのくらいを想定しているのでしょうか。小学校、中学校の児童・生徒を持つ親にとって、どのような学校教育が提供されるか、学力水準がどの程度かは最大の関心事であると思います。 小・中のすべての学年において、成績が埼玉県の平均値を下回る状況下では、今後の移転先として日高市が魅力的であるかどうか気がなります。 この場合後期5か年計画に示された学力向上のための施策をこの創生戦略にも取り入れるべきだと思います。	本総合戦略では、「子育ての期間」として、子どもが生まれてから、原則、義務教育期間を終えるまでの間を捉えて、子育てにかかる施策や事業を整理しています。また、子どもを産みたいと思う人が、妊娠・出産するまでを含めて、“子育て環境づくり”としてサポートすることを予定しています。 御指摘いただいた、学力向上のための施策としては、総合戦略では「確かな学力と豊かな心を育む教育環境の提要提供」として、具体的な施策・事業の推進を予定しています。また、地方創生先行型として学力検査(CRT検査)、学級経営検査(HyperQU検査)があり、今後は、英語教育やICTを駆使した教育環境の整備、土曜日を利用した授業の開講などについても検討しているところです。

9	<p>施策3ー施策4 日高市に転入後、第2子、第3子を出産する世帯にとっては、子どもが就学年齢に達した後、教育費を補完する上でも女性の適切な就業機会があるかどうかは重要だと思う。 子どもが就学年齢に達するまでは子育てに専念しても、その後の雇用機会の提供および女性の就業を支援するシステム(リカレント教育等も含め)が必要だと思う。</p>	<p>総合戦略では、「施策3ー3 子育てと仕事の両立支援(ワークライフバランスの推進)」として、“女性の活躍推進”のために、保育サービスの充実から男性の子育て促進、出産や育児で離職した女性の再就職に役立つ様々な施策・事業の推進を予定しています。</p>
10	<p>第3章は、戦略として何をやるのかを示した主文とすれば、第1章と第2章は、主文の前文のような内容と理解した。 第一印象として、本原案では、多くがこの第1章と第2章に費やされていて、肝心の第3章が貧弱のような印象を持った。 第2章は、人口ビジョンについて詳細な分析がなされていて、説得力がある。しかし、分量が多く、読み手にとっては、木(各論)は見えるが、森(全体像)は見えにくいようにも思う。 本文については、要点を絞った内容として、詳細なデータやグラフなどは、本文とは別の資料編などに移行させるなどの工夫をすることを検討する余地があるように思う。</p>	<p>御指摘いただいた通り、第2章では要点のみ抜粋し、その他の情報は資料編として取り扱うこととします。</p>
11	<p>第3章「第1節の総合戦略の体系」については、これまでの分析結果とどのように結び付くのか、すなわち第1章と第2章との関係性が明確でなく、<日高づくり戦略>の各施策が唐突に出てきたような印象を持った。 例えば、23ページの「戦略1」については、指標を「入込観光客数」としていることから、主として交流人口を増やす施策のように受け取ったが、定住人口を増やす施策は必要ないのか、なぜトップの戦略として観光なのか、などについて本案を拝読しただけでは、分かりづらいのではないかと。</p>	<p>各戦略について、目指すべき方向性とのつながりがわかるよう、説明を付記するようにします。 御指摘の通り、総合戦略では定住人口にかかる施策も重要と考えていますが、本市は東京圏に位置付けられていることから、外から定住者を呼び込むよりも、人口の流出を食い止める施策が重要だと考えています。そのため、子育て環境の充実、学力向上のための環境づくり、耐震化住宅への支援などを通して定住化を促していくこととしています。 そうした安心・快適に住み続けられる“環境づくり”とともに、まずは、既に本市に住んでいる人が住まう場所としての魅力を十分に感じてもらえるよう、また市外の人々が一度は訪れてまた来たい、住みたいと感じてもらえるよう、埼玉県日高市の“ファンづくり”に向けたイメージアップが重要と考え、戦略1として日高市の魅力創造、発信にかかる取り組みを掲げています。</p>
12	<p>「②純移動率の設定」の<将来展望2> 「・・・市外で子どもを産み、ファミリーで流入している状況が伺えます。・・・」としている。現状がそうだとすれば、このような流入の流れをさらに増大・加速させる施策を考えても良いのでは思った。 そのためには、どのような理由・誘因でこのような流入増の事象が起きているのか、また、これらのファミリー層が流入後にまちに期待していることは何かなどを把握の上、これらに応じた施策を展開することが求められる。 このことにより、一層、このファミリー層の流入の動きを加速・増幅させる可能性があると思う。このようなアプローチによって、定住人口を増やすことに結び付く「他市にない日高の強みや魅力」を創出することができる可能性が生まれると思う。</p>	<p>御指摘の通り、本市では平成17年から平成21年に、都市計画上の規制緩和による土地利用の誘導制度や土地区画整理事業の推進により、ファミリー層が多く転入してくれました。今後も、予定している区画整理事業などにより一定程度の流入増は期待できるものと考えています。 しかしながら今後は、近隣市町村も同様に、定住人口の維持・獲得のために、さらに魅力的な施策を講じていくものと推察され、平成17年当時のような大幅な人口流入の流れを創り出すことは困難になるものと考えています。そのため本市では、市民の方々が市外に転出してしまわないよう、人口流出を食い止めるための取り組みが重要であると考えています。 昨年度実施した市民ワークショップやアンケート調査の結果等の結果なども踏まえながら、人口流出抑制に向けた施策を講じてまいりたいと考えています。</p>
13	<p>人口密度の単位については、分母と分子が逆になっているような気がする。</p>	<p>御指摘ありがとうございます。単位を修正いたしました。</p>
14	<p>人口ピラミッドの図のなかに「コーホート」の表記があります。94ページまで読み進めれば「コーホート」とは何かはわかるのですが、「コーホート」のような一般になじみが少ない用語を使う場合、初出のときに簡単な説明を付すか、この場合は94ページを参照するよう誘導する記述があると助かります。</p>	<p>該当ページを参照するよう、記述を追記いたします。</p>
15	<p>「・・・、目的別に見ると特に都市型観光が6割・・・」とありますが、この「都市型観光」は具体的に何を指すのか分かり難いです。「・・・〇〇〇などの都市型観光が・・・」などと、具体的な事例を入れていただけると、わかり易いと思います。</p>	<p>御指摘のように、具体的な例示を追加するようにいたします。</p>
16	<p>「・・・東北自動車道への接続も予定されるなど・・・」既に接続が完了していますので、表現を修正した方が良いと思います。</p>	<p>御指摘の通り、修正いたします。</p>
17	<p>「空き家の割合」「空き家率」「空家率」など、表記の揺らぎが見られます。</p>	<p>「空き家率」で表記を統一いたします。</p>
18	<p>「本市のまちづくりに対する市民意向」として「市民意識調査」の結果を紹介しています。調査結果とともに調査日時、調査方法、調査対象数と有効回答数などに加えて、回答者の属性を明記することが必要だと思います。 調査方法には、調査の対象となった市民2000人をどのように抽出したのか、調査票の配布・回収は郵送によったのかどうか、なども不明でした。また、回答者の属性別の回収率がわかるとありがたいです。 これらは、本文に入れると煩雑になるとすれば、別枠や別資料として、他の場所に記載していただくと助かります。 なお、回答者の属性(年齢・居住地域・性別など)は、115ページの表からわかるので、わざわざ記す必要がないとの考えです。 加えて、クロス集計や前回調査との比較分析については、まずもって、それぞれのデータ比較において、有意な差が認められたかどうかのチェックは必要だと思います。(有意な差が認められないデータの比較は意味がありませんので)</p>	<p>アンケートの概要について、資料編に記述します。また、図表の内容が重複するものなどについては、どちらを優先するかを含めて、精査させていただきます。</p>

19	<p>戦略のために必要となる現在の表を最小限度にしてもらえると助かります。どの資料も大切に一生懸命作ってくださっています。1冊だと理解するのが大変なので、1冊の他にお手数ですが、これだけは知ってもらいたい、議論してもらいたい表など別紙でくれると助かります。</p> <p>また、グラフや表などに対して結果を伝えてはいますが、それがどういう意味なのか、どういう表になるといいのか、その為にはどうしたらいいのか、ピーンときません。その都度書いて、言葉が慣れてくると、理解できるものもありました。</p> <p>市民の方に話させる時は、会議の前に流れやこういう意見が欲しいなど事前に聞いていたので、会議中に理解が出てきて助かりました。</p>	<p>御指摘いただいた通り、ボリュームの多い部分(特に第2章)を、見ていただきたい要点のみ抜粋するようにし、その他の情報は資料編として取り扱うようにします。</p>
20	<p>◎観光づくりについて</p> <p>「稼ぐ力」の強化として、魅力を市内外に積極的にPRし、偏りない内容で進めていくことが大切だと思います。観光客が多く来るようになったとしても、地元の人に関心がなかったりして、携わる人が少なかったら、運営できないと思います。さまざまな魅力ある観光地に地元の人を楽しみ、いつの間にか、自慢となっていき、それを守ろうと働く人が多くなっていくと思います。事業に対して、市内外でも興味のある一工夫が大切だと思います。</p>	<p>御指摘のとおり、市外に対する魅力のアピールとともに、市内に住まい・働く方々にとっても、外から多くの人を訪れることに対するメリットを感じられるようにしていく必要があると考えています。</p> <p>総合戦略では、日高市の地域資源を活かした観光基盤やメニューづくり等により、住んでいる人にとっても魅力を楽しめる、例えば、子どもたちがまちの自然や歴史、文化等を体感することで愛着を持てるよう取組みを推進していきます。また、「施策4-3 若者世代の人材活用」にも掲げるように、JCや連携大学の協力を得ながら、若い人のアイデアで市の魅力をPRし、自慢できるまちにしていきます。</p>
21	<p>◎住み続けたい住環境づくり</p> <p>防犯のためにも空き家の再利用などは、とても良い取組だと思います。それぞれの年齢層にとっての心配事は何かをリサーチをして、「こういうシステムがあるから住んでいる」など、安心して住めるまちづくりが大切である。</p> <p>例えば、週末、お弁当を持参して安心して遊べる施設(市内の人でも地元観光できる観光バス)、夜間や日祝の小児科、仕事をしていてどうしても身動きが取れない時に子どもを預けられる場所、充実した部活動などさまざまな分野で年齢層に関係なく認められる環境や居場所づくりが充実していれば、豊かな心が芽生え、人々が助け合い、良い環境づくりができるのではないかと。親の背中を見て生きるのではないが、自分より上の人が住みやすい環境であれば、日高市に留まってくれる人が増えるのでは。</p>	<p>御提案いただいた取組みについては、今後具体的に事業を推進していく上で参考とさせていただきたいと思います。</p>
22	<p>◎しごとづくり</p> <p>女性が仕事をしていくには、子どもが急に体調を崩した時、安心して仕事を休めたり、病気時に子どもを預けるサービスがあるとお互い気分の良い環境になると思います。日高市の特産品など農産物やものづくりの後継者が絶えないよう取組が大切だと思います。(機械が良くても、米は特に片付けが大変。)</p>	<p>総合戦略では、「施策3-3 子育てと仕事の両立支援(ワークライフバランスの推進)」として、“女性の活躍推進”のために、夜間保育や病児・病後児保育などを含む保育サービスの充実についても施策・事業として掲載しています。</p> <p>また、後継者が絶えないような取組みとしては、「施策4-1 就業、就農への支援」として、特に青年就農の支援などを予定しています。</p>
23	<p>全体的に、重要業績評価指数(KPI)や指標、なぜその課題を出てきて、何を意味するのか、いまいち理解できなかったです。</p>	<p>各戦略について、目指すべき方向性とのつながりがわかるよう、説明を付記するようにします。</p> <p>また、KPIを設定した対象施策・事業等を明記し、指標とのつながりがわかるように記載の仕方を工夫するとともに、指標の説明部分について、よりわかりやすいよう一部修正を行います。</p>